

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：32692

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370027

研究課題名(和文)人の生命・健康に関わる医療情報の価値構造の研究

研究課題名(英文)Value structure of medical information in relation to life and health

研究代表者

吉武 久美子 (YOSHITAKE, Kumiko)

東京工科大学・医療保健学部・准教授

研究者番号：90468215

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、人と生命・健康に変わる医療情報に関して、患者と医療者との共同の意思決定を行う際の重要な概念として「Prospective Consensus Building」を導出できたことである。この概念には、医療者・患者という関係者の「意見の理由」および「理由の来歴を共有」し、選択後のリスクを提示することが含まれる。本研究では、「人の生命・健康に関わる医療情報共有に関わる価値構造」として、多様なステークホルダーが関わる複雑で不確実性を伴う医療の意思決定では、変化する医療空間に即応し続ける情報提供と共有のあり方の要請が公正および正義に関する価値と連関することを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study describes a new concept as an essential factor in case of shared decision making between patients and medical staff in relation to life and health information. The new concept is "Prospective consensus building". This concept includes three contents. They are 1) sharing reasons of stakeholders, 2) sharing history of reasons, and 3) lists of risks after decision making. If there are conflicts of value among stakeholders in case of treatment decision making, medical staff have to continue to make effort sharing of medical information accordingly. Because complex and uncertain situation in clinical settings ease to vary. Sharing information using "Prospective consensus building" help to share various reasons of opinions and resolute ethical issues in such situation. This study concludes such communication method using "prospective consensus building" result in justification or fair in relation to medical information.

研究分野：応用倫理

キーワード：意思決定 合意形成 倫理的価値構造 情報共有 正義

1. 研究開始当初の背景

医療行為をどのような手続きで意思決定に導くかという課題についての研究は、欧米では、パターナリズム的意思決定モデルに対する批判から Informed Consent Model, Shared Decision Making Model と展開している (Charles, C, Gafni, A., 1997; Joosten, E.A.G., DeFuentes-Merillas, et al,2008)。また、倫理的概念についての研究では、医療とケアの実現すべき機会の均等性や医療資源の配分的正義の問題など、制度論的な面からも行われている (Rhodes.R, BattinM.P.ed,2012)。現代医療の基本は、個人的な情報にもとづく本人の意思による意思決定を行うことであり、医療情報の提供・共有は、倫理的意決定の基礎となっている。医療における意思決定には、医療機関や医療者をいかに選択するかという公共的な情報も不可欠である。

研究代表者が倫理的な問題について研究を進めてきた医療領域、とくに生殖医療では、出生前診断や体外受精、代理懐胎だけでなく、子宮移植、卵巣保存などの先端医療技術の研究が動物実験から人への応用段階に進みつつある (Mihara・Kisu,2012)。周産期医療と移植医療が融合したケースなど、従来の意思決定モデルでは対応が難しい状況が生じている。また、新たな技術の研究・応用についても、その安全性、コスト、制度等についても情報提供・共有のあり方を含む新たな倫理的意決定モデルの提案が求められている。

国内外の研究動向を踏まえ、研究代表者は、医療に関する合意形成プロセスにもとづく意思決定について研究を重ねており、「合意形成モデル」を提案した(吉武,2007)。また、科学研究費基盤研究(C)平成22年度～平成24年度「人の生命に関わる意思決定の倫理的価値構造に関する研究」にお

いて、周産期医療における意思決定と合意形成に注目し、「産科医療における意思決定の価値構造」を明らかにし、研究成果を『産科医療と生命倫理-よりよい意思決定と紛争予防のために』として出版した。上記科学研究費補助金により、上記「合意形成モデル」の精緻化を行い、多様で複雑な状況下での意思決定では、関係者の「意見の理由」だけでなく、「意見の理由の形成過程」としての「理由の来歴」を把握する重要性を明らかにした(吉武,2011)。さらに、最終年度では、「予測的合意形成モデル」を創出し、他の意思決定モデルとの比較を通してこのモデルの特徴を明らかにし、その成果をアジア生命倫理学会で”Prospective Consensus Building based on History of Reason and List of Risks”と題して発表した(Yoshitake,2012)。

以上のような研究を進める過程で、研究代表者は、意思決定や合意形成の理解をさらに深めるためには、関係者間における情報提供・共有の方法の検討が必要不可欠であることを認識するに至った。人の生命・健康に関する意思決定には、関係者による「パーソナルな医療情報」の共有のみならず、公共的な情報、すなわち、医療制度や医療施設に関わる情報、医療技術を用いることの安全性に関わる情報、医療資源の地域分布に関わる情報など、「パブリックな情報」の提供と共有のあり方を検討することが必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「人の生命・健康に関わる医療情報の提供・共有」に含まれる課題を分析し、その適正な方法の条件を考察することによって、情報共有に実現すべき「公正・正義」の倫理的構造を明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究は、3 ヶ年で行った。パーソナルな情報共有の例、パブリックな情報共有の例に対して、それぞれの分析を行うとともに、両者の相違点、類似点を整理し、最終的には統合し、医療情報共有のための倫理的価値構造の構築を行った。

初年度は、パーソナルな情報共有の例、パブリックな情報共有の現状分析を行い、次年度では、問題解決のための正義に関する要素を探索し、最終年度では、情報を公平・公正に共有するための条件および手続きに関して理論化を行った。研究の全プロセスを通して、時間、空間、環境の視点から分析をした。

4. 研究成果

本研究の成果は、「人と生命・健康に変わる医療情報」を患者と医療者との共同の意思決定を行う際の重要な概念として、「Prospective Consensus Building」を導出できたことである。この概念には、医療者・患者という関係者の「意見の理由」および「理由の来歴を共有」し、選択後のリスクを提示するというコミュニケーションの特徴がある。それと同時に、本概念は、過去から現在、現在から未来という時間軸の視点と関係者（ステークホルダー）や問題の複雑さの広がりを示す医療空間の視点が含まれている。

研究代表者は、この概念に含まれる要素を正義の観点とからめて分析するだけでなく、概念を用いた実践への応用へとつなげて展開させた。すなわち、本概念を取り入れた医療者向けの倫理教育を行うとともに、その実践を「倫理的合意形成の倫理教育の理論と方法論」について論文を投稿し、2015年雑誌 Journal medicine and Law に掲載された。また、同様に、本概念を用いた倫理教育の具体的な内容については、雑誌「看

護管理」(医学書院、2015)にて連載された。さらに、医療情報共有のあり方として、倫理的合意形成の概念を取り入れた倫理教育については、2015年、International Conference on Clinical Ethics & Consultation にて報告した。

本研究の結論として、「人の生命・健康に関わる医療情報共有に関わる価値構造」として、多様なステークホルダーが関与する複雑で不確実性を伴う医療の意思決定では、変化する医療空間に即応し続ける情報提供と共有のあり方の要請が公正および正義に関する価値と連関することを明らかにした。本内容については、生殖補助医療技術の例をもとに考察し、UNESCO chair in Bioethics 11th World conference on Bioethics, Medical Ethics and Health Law にて報告を行った。

さらに、本研究を通して考察を進める過程で、「Prospective consensus building」の概念を用いた情報共有方法は、医療の複雑な状況下における倫理的問題に対する解決方法の一助になると思われた。そこで、本研究の成果を発展させて、倫理的問題発生時に、第三者のコンサルテーションを求める「倫理的コンサルテーション」における情報共有のあり方の考察につなげるべきであるという認識に至った。本テーマは、平成28年度～平成30年度科学研究費基盤研究(C)「生命と健康にかかわる倫理コンサルテーションの価値構造についての研究」として申請し、受託されたところである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 19 件)

1. 吉武久美子(2016). 臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門10、事例 現場で合意形成を活かすには、看護管理 26(1)、90-93、医学書院、査読無.

2.吉武久美子(2016).臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門11、これからの医療現場における倫理と合意形成、看護管理 26(2)、196-199、医学書院、査読無.

3.桑子敏雄(2016).地域の中の医療・看護と社会的合意形成、老年看護、20(2)9-14 査読無.

4.Kumiko Yoshitake(2015).Theory and Practice of Hospital Training for Medical Ethics -Consensus Building Method with Spatio-Temporal Perspective, Medicine and Law Journal 34(2) 203-216, 査読有.

5.桑子敏雄(2015).恵みと脅威のマネジメント思想, Science Window, 9(2),22-23, 査読無.

6.吉武久美子(2015).臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門1、看護管理者が知っておきたい「倫理的合意形成」の基礎知識、看護管理 25(4)354-357、医学書院. 査読無.

7.吉武久美子(2015).臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門2、医療者と患者による倫理的意思決定の特徴を知る、看護管理 25(5)440-443、医学書院、査読無.

8.吉武久美子(2015).臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門3、看護管理における「合意形成」の視点とは、看護管理 25(6)526-529、医学書院、査読無.

9.吉武久美子(2015).臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門4、倫理リスクと合意形成のコミュニケーション、看護管理 25(7)、616-619、医学書院、査読無.

10.吉武久美子(2015).臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門5、実践 実践家のための倫理研修 倫理的トラブル回避と問題解決のための方法、看護管理 25(8)、722-725、医学書院、査読無.

11.吉武久美子(2015).臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門6、実践 よい話し合いの方法を学ぶ/ファシリテーション、看護管理 25(9)844-847、医学書院、査読無.

12.吉武久美子(2015).臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門7、実践 院内で倫理研修を企画するためには 合意形成の体験を促進する研修の工夫、看護管理 25(10)、934-937、医学書院、査読無.

13.吉武久美子(2015).臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門8、事例 倫理研修の紹介「周産期医療における医師と看護師

の協働」、看護管理 25(11)、1046-1049、医学書院、査読無.

14.吉武久美子(2015).臨床現場で実践したい「倫理的合意形成」入門9、事例 院内教育担当者とファシリテータの役割を担う看護職の協働、看護管理 25(12)、1140-1143、医学書院、査読無.

15.Toshio Kuwako(2014).Fukushima and the philosophy of containment, Risky engagements: encounters between science and art,14-15, 査読無.

16.桑子敏雄(2014).公共空間のコミュニティデザイン 市民普請のすすめ 土木学会誌 99(1),30-33、査読無.

17.Kumiko Yoshitake(2013). Prospective Consensus Building-Ethical Consideration on History of Reason and List of Risks, Philosophy Study 3(6)443~455, 査読有.

18.Kumiko Yoshitake, Yoshiko Kadohata and Toshio Kuwako(2013).Justice of Sharing Information as Commons After the Nuclear Disaster in Fukushima, The Digital Library of The commons Respository, 1-12. 査読有.

19.吉武久美子(2013).医療の合意形成—時間的要素を含む「予期的合意形成モデル」の提案、感性工学、査読無 12(1)280-283.

〔学会発表〕(計 5件)

1.吉武久美子(2016).いのちに関わる合意形成 医療者の感性を伸ばす,第11回日本感性工学会春季大会企画セッション「生命と感性」,兵庫県神戸市中央区.

2.Kumiko Yoshitake(2015).Ethical Education and Ethical Consensus Building, 11th Annual International Conference on Clinical Ethics & Consultation, New York City, NY, USA.

3.Kumiko Yoshitake(2015). Assisted Reproductive Choices and Ethical Consensus Building, UNESCO Chair in Bioethics 11th World Conference on Bioethics, Medecail Ethics, and Health Law, Naples, Italy.

4.Kumiko Yoshitake, Yoshiko Kadohata, and Toshio Kuwako (2013).Justice of Sharing Information as Commons After the Nuclear Disaster in Fukushima, 14th Global conference of The International Association for the study of the commons, Kitafuji, JAPAN

5. Kumiko Yoshitake (2013) .Theory and Practice of Hospital Training for Medical Ethics -Consensus Building Method with Spatio-Temporal Perspective、UNESCO Chair in Bioethics 9th World Conference Bioethics, Medical Ethics and Health Law、Napoli, Italy.

〔図書〕(計 1件)

1. Toshio Kuwako(2015).A New Stage of Citizen Works for Regeneration of Environment and Landscape in Japan, 60-73 ZzaC(International Group of Reseach), 査読無.

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉武 久美子 (YOSHITAKE Kumiko)
東京工科大学 医療保健学部 准教授

研究者番号 : 90468215

(2)連携研究者

桑子 敏雄 (KUWAKO Toshio)
東京工業大学 社会理工学研究科 教授

研究者番号 : 30134422